

## 議 事 録

会 議 の 名 称	令和4年度 第2回藤井寺市総合計画審議会
開 催 日 時	令和4年12月13日(火) 午後5時30分 ~ 午後8時00分
開 催 場 所	藤井寺市役所 3階305会議室
出 席 者	(審議会委員13名) 加藤司会長、的場啓一副会長、宗田好史委員、木村三千世委員、高原達也委員、 上田裕彦委員、濱幸一委員、家田葵委員、三浦悦子委員、松川哲也委員、 下井由美子委員、森千歳委員、田中恒委員 * (欠席委員: 2名) (市側) 山本政策企画部長、永田政策企画部次長兼政策推進課長、小川主幹、田中主幹、 脇田チーフ、増田主査 (コンサルタント) 有限責任監査法人トーマツ
会 議 次 第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 (1) 基本構想の策定に係るキーワードについて (2) その他 4. 閉会
配 付 資 料	・ 審議会の次第 ・ 資料1 総合計画の検討イメージ ・ 資料2 基礎情報 ・ 資料3 市民アンケート結果報告書 ・ 資料4 第1回市民WS意見まとめ ・ 資料5 第1回審議会時のご意見(「良いまち」について) ・ 資料6 現計画の将来像
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	3人
そ の 他 必 要 事 項	

## 1. 開会

## 2. 会長挨拶

今回は基本構想の策定に係るキーワードについて議論を行う。事務局より資料説明の後、委員の皆さんから将来のまちづくりにふさわしい思いや言葉を頂きたい。

## 3. 議事

### (1) 基本構想の策定に係るキーワードについて

事務局より資料1～6を用いて説明

#### <委員意見>

- ・市民は公共交通や下水道などに不満を抱いているが、これらはいずれも財政負担が大きいものである。市民に財政の厳しい現状を共有したうえで、どう財源を確保するかについて検討を行うべきである。市でいえば、固定資産税の増税が考えられるが、空き家が増えることが想定されるため、高齢者に対する家屋売却の支援を行い、若年層や流入人口に流通させることも重要と思われる。
- ・学力格差を見ると、一般的に、コミュニティが強固な地域は学力水準が高い傾向にある。また、防災に関しても、防火地域や空き家の問題などを連携させて考えることが重要である。
- ・市の厳しい財政状況は、施策の優先順位を検討するためにも重要となるため、本委員会で情報を共有いただきつつ議論を行っていききたい。
- ・藤井寺球場は市の歴史という観点から観光資産としてプロモーションできるのではないかと。また、観光プロモーションで30代の女性をターゲットとする理由はなぜか。観光であれば人口の多い高齢者層を狙ってはどうか。
- ・財政が厳しいことから、市として増収しなければならない。また、自治会の加入率が下がってきている。特にマンションの住民は町内会に参加しないことが多い。加入率は6～7割程度であり他自治体と比較して低い水準にはないものの、加入率を向上させるツールがないため支援が必要と思われる。
- ・市の教育委員会で贈賄問題が生じていることについてはどのように考えているか。12月委員会で予算を確保し第三者委員会を立ち上げるとのことだが、教育は重要であり若年層の流入を阻害するおそれがあるため早急に対応を進めてほしい。
- ・子育てに関しては事前にアンケート等で市民の意見を聞いたうえで公園2箇所改装していただいております。その点は高く評価している。また、来年の五月からはインボイス制度の導入により中小企業からの税収が微増すると思われる。世界遺産をランドマークとしてSNS等でプロモーションするとよいのではないかと。
- ・市民病院の経営状態が芳しくない状態を解消する必要がある。市民病院のある市は赤字となっていることが多い。また、税収確保のためにも製造業事業者への支援が必要と考える。藤井寺市は住宅地域が多いということもあり、建て替え許可が出ないことにより工場が維持できなければ事業者は工業団地等へ流出せざるを得ず、従業員を地元で雇用できなくなるため、市による既存事業者の保護が必要である。製造業が栄えており経済が循環しているまちが良いまちの条件と考えてほしい。財政と紐づいた地に足の着いたビジョンを策定してほしい。
- ・おおむねこれまで出てきた意見に同意する。市の印象は子供のころに見た藤井寺球場と道明寺の桜で、古墳のイメージはない。職場は大阪市であるが、イオンの建て替えに関する情報と賃貸住宅があったことが

決め手で市に移住した。若年層は家の購入は難しく賃貸を選択することが多いため、気軽に住めるという点は重要になる。また、古墳や大学を目的に人が流入しているが、すぐに電車に乗って帰ってしまう方が多く、あまり市にお金は落ちていないのではないか。お金を落としてもらえる仕組みを構築することが重要である。市に住む魅力としては、職場に近いことが一番重要と思う。一度住むと子育て世代は保育園、小学校などの制約があり長く住み続けることになるため、一度住んでもらうことが重要である。道路の交通問題として、公共交通というより道路事情が気にはなっているものの、古墳で遊べたり公園が充実していたり、少し足を延ばせば色々なものにアクセスできるため便利であり、住んでみてから住みやすさに気づいた。

- ・ コロナ関連融資の申込のために会員となる方が増えたこともあり、商工会の会員数が7%程度増加した。会員数では大阪府下の16ある商工会の中で上位5位程度である。商工会に根付いてほしいため事業承継等のアドバイスを行っているところ。従業員数などは減少が続いているかもしれないが、事業者数としては増加しているのではないか。
- ・ 教育に関して、小学生の体操服など学校教育に関する物品が市内で手に入らず、ママさんが困っている状況がある。
- ・ 周辺自治体と比較した際の市の特徴は世界遺産があることと考える。ただし、もずふる応援隊の加入の際に他自治体の団体にも加入を呼びかけられたこともあり、連携ができていないように思われる。周辺自治体や団体と協働すればよいのではないか。また、大企業との連携や企業版ふるさと納税なども積極的に推進すべきと考える。
- ・ 財政においては収入増だけでなく支出減も重要である。何かの役に立ちたいがどこにどう連絡したらいいかが分からない人が多いと思われるため、福祉や教育分野における有償ボランティアの受け皿を作るなど、市において住民の役割づくりを行うことも有効と考える。
- ・ 市が地域コミュニティや教育活動でボランティアのできる場を作る必要がある。その際、若者など誰でも関与いただけるような雰囲気づくりも重要である。いま具体的にどのようなボランティアや活動があるかを調べて課題や可能性を見出す必要がある。
- ・ 市に相談しに行くほどではないグリーゾーンの悩みを多くの人が抱えている。子どもと一緒に料理をするイベントを実施することで、高齢者は子どもから元気をもらえたり、認知症に気づききっかけになったりするのでは。
- ・ 市には子供会がない。また、普段子どもが外で遊んでいる光景をあまり見ないが、祭りでは多くの子どもや親が集まる。祭りのようなイベントがあれば子どもが外に出るようになるのではないか。
- ・ 子供会は全国で減少していつているが、子育て世代からは復活させたいという声も聞かれるため、町内会や市で支える必要がある。
- ・ 今の子どもはインターネットでコミュニティを形成しているため、お祭りのようなイベントは重要であると考えている。
- ・ 市としては観光客のリピーターを確保して市に移住してもらうために、横との繋がりを増やすような面白い仕掛けができればよいと考える。古墳巡りマラソン大会など周辺自治体と連携して目を引くイベントを行うことも考えられるのではないか。商店街のお店もお客さんが代替わりで継いでいくようなお店があっても面白いと思われる。また、ペットを飼っている人の集まりなど、好きなことの共通点のあるコミュニティであれば参加のハードルが下がると思われる。ペットの散歩と見回りを兼ねて防犯につなげる取組例もある。マンションごと町内会に加入してもらうことも考えられる。また、マンションの一階にタニタ食堂や保育所などを入れると即売したケースもあるなど、何かと掛け合わせることで人が集まり地域コミュニ

ティが形成できるのではないか。

- ・ 市主導ではないものも含めて、市において具体的にどのようなボランティアや活動が存在するかを確認したい。
- ・ 統計だけでなく観光振興に関する企画・計画を市で真剣に考えて実施してほしい。
- ・ 市には製造業事業者やボランティアが多く存在し、豊富な観光資源が存在するにもかかわらず市が周辺地域に知られていない。地域間交流を促す事業を実施するなど藤井寺ブランドの掘り起こしや創出を行っていく必要がある。
- ・ 生涯学習、子育て、市民活動・人権のような様々な分野の団体が存在しているが、市においてそれぞれ担当課が異なるため情報の集約が難しくなっている。地域で民生委員など様々な方が活動してくれているため、それらの活動が次の世代に受け継がれていくことが望ましい。
- ・ 企業活動を支援するような、財政に見合った稼げる総合計画としてほしい。
- ・ 体育館建て替えに合わせて道の駅を整備するなど、南河内の他自治体を巻き込んだビジネスマッチングを実施することで増収に繋がるのではないか。
- ・ 増税など住民に負担を求めてまでその施策を行うかという視点を持たばより活発な議論ができるのではないか。また住民としても、このまちは税金の払いがいがあるまちかを考えるようになる。
- ・ 財源が限られているなかで総花的な総合計画とすることは望ましくない。特定の分野に重点化させて地に足をつけた総合計画を策定すべきである。あわせて施策の優先順位とそのための財政負担に関してはしっかりと議論を行う必要がある。総合計画の中に負担の方法についても記載することが望ましいのではないか。
- ・ 他の自治体と比較して民間企業の活力が活かされていないように思われるため、民間活力の活用推進を行うことが望ましい。

## (2) その他

- ・ 次回の審議会は2023年3月下旬から4月頃に実施する。

## 4. 閉会

以上